



全国クレーン  
建設業協会

柴崎会長

残業規制の強化で、午後3時に工事現場でクレーン車の作業を終える前提で見積もりを出す地域もある。1日の作業量が減る分、建設工事の期間や費用は膨らむだろう。

クレーン車の保有企業などをつくる全国クレーン建設業協会は大手ゼネコンなどに作業時間の短縮を求めている。柴崎祐一会長は「都心部の工事現場では遠方からクレーン車を運ぶことも多く、車両の往復や点検で労働時間が延びてしまう」と話す。

2024. 8. 29

日経(朝)